

ウサギシダ	<i>Gymnocarpium dryopteris</i> (L.) Newman	絶滅危惧Ⅱ類
		イワデンド科
選定理由	岐阜県では生育地、個体数共に少なく存続の基盤が脆弱である。	写真(加藤範夫) 
形態の特徴	夏緑性のシダ植物。根茎は長く這う。葉は長さ10-30cmで3回羽状複生になる。孢子嚢群は円形で裂片の辺縁近くに着く。	
生態的特徴	標高の高い山地のやや明るい林下に生育している。	
分布状況	県北の限られた地域に見られ、分布の西限になると思われる。	
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化及びササ類の繁殖による生育環境の悪化が主な要因と思われる。	
保全対策	生育地の森林の適度な管理とササ類の駆除が必要である。	
特記事項	県内のものは変種のアオキガハラウサギシダとされるが母種の3出葉的な葉も見られるのでここでは区別しなかった。最近の分類ではナヨシダ科として扱われている。	
参考文献	岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物. シダ. P. 228. 平凡社. 東京. 倉田悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑. 4. P.652-655. 東京大学出版会. 東京. 邑田仁・米倉浩司. 2013. 維管束植物分類表. P. 41. 北隆館. 東京.	